

歌詞から読み解く恋愛観 ～昭和・平成・令和の移り変わり～

国語班:松本 梨央・三好 恵瑠奈

Abstract

The purpose of this research is to explore whether we can understand the changing views on love through song lyrics. To do this, we focused on love songs and examined how the spread of social media and the growing ideas of gender equality have influenced the relationships between men and women. We concluded that the changes in the structure of power and dominance between the sexes, as well as the main social media platforms of each era, are reflected in the lyrics, allowing us to trace the evolution of views on love.

要約

本研究の目的は、歌詞から恋愛観の移り変わりが読み解けるのかを明らかにすることである。そこで私たちは、恋愛ソングの歌詞に着目した。そのことから、SNSの普及や男女平等の考え方が広まったことで、各時代の主なSNSや男女間の力関係・優位性の構造の変化が恋愛に関係することが分かり、歌詞から恋愛観の移り変わりを読み解くことができると結論付けた。

1. はじめに

昔はお見合いをしてまで結婚をすることが重要視されていたのに対して、近年は結婚率が減少している。このことから、SNSの普及や生活様式の変遷によって、人々の価値観や行動様式が変化し、「恋愛観」が移り変わってきているのではないかと考察した。本研究では、歌詞の意味を分析している先行研究を参考にし、恋愛ソングの歌詞から恋愛観の移り変わりを分析することができるのか調査する。

2. 研究手法

高津高校の2年生360人と教員80人を対象に、昭和、平成、令和のそれぞれで代表的だと思う恋愛ソングは何か、というアンケートを取った。票が集まったものを中心に、昭和は4曲、平成・令和は6曲ずつ取り上げ、それらの曲の歌詞を分析した。

3. 結果

◎SNS関連

○昭和

・『クリスマス・イブ』山下達郎

「きっと君は来ない」

→当時はメールやLINEなどの連絡ツールがないため、相手が約束通り来るかもわからず、約束した時間に相手が来なくても待つことしかできなかった

・『恋におちて -Fall in Love-』小林明子

「ダイヤル回して手を止めた」

→黒電話が主流の当時は、連絡すること自体のハードルが高かった

○平成

・『Over』Mr.Children

「いざとなれば 毎晩君が眠りにつく頃 あいも変わらず電話かけてやる」

→簡単に連絡を取ることができる手段がある

・『CHE.R.RY』YUI

「返事はすぐにしちゃダメだって 誰かに聞いたことあるけど かけひきなんて出来ないの」

→SNSの活用方法が恋愛の鍵になることがある

- ・『HAPPY BIRTHDAY』back number
「着信の音で飛び起きたけど損したな 君かと思ったのに」
→SNSの反応1つで一喜一憂することがある

○令和

- ・『おくすり』ユイカ
「就寝前の電話 私が寝落ちてもそのまま朝まで繋いでてね」
→気軽に連絡できるツールがある

- ・『同担☆拒否』HoneyWorks
「写真を撮って(大好き)ツイートしてね(大好き)」
→SNSで好きな芸能人のプライベートな姿が見られるようになった

- ・『ガチ恋一步手前です』ましゅまるん
「恋愛とかじゃなくて 憧れや尊敬に近い そう思っていたのに 最近もう君が頭を離れないねえ「ガチ恋してもいいのかな？」」
→推しに恋をするという概念が生まれた

◎男女間の力関係や優位性の構造の変化

○昭和

- ・『恋』松山千春
「男はいつも待たせるだけで 女はいつも待ちくたびれて」
→男が待たせる側、女が待つ側 という男性優位

- ・『関白宣言』さだまさし
「お前にはお前にしかできない事もあるから それ以外は口出しせず 黙って俺についてこい」
→女性は男性より控えめであるべきだという考えの表れ

○平成

- ・『小さな恋のうた』MONGOL800
「二人は歩く 暗い道でも 日々照らす月 握りしめた手 離すことなく 思いは強く 永遠誓う」
→“2人で” 幸せになるという強い気持ち

- ・『キセキ』GRe4N BOYS (GReeeeN)
「2人寄り添って歩いて 永久の愛を形にして いつまでも君の横で 笑っていたくて」
→“2人で” を大切にしている

- ・『最大公約数』RADWIMPS
「消えそうな想い詰め込んだんだ 崩れそうな夜も超えたんだ 二人で」
→どんな困難も”2人”でなら乗り越えられたという事実

○令和

- ・『最上級にかわいいの！』超ときめき♡宣伝部
「君に振られて最上級に可愛いの！自分史上一番ときめき放つわ」
→振られて落ち込むのではなく、自分を磨いて相手を見返そうという強気な姿勢

- ・『元彼女のみなさまへ』コレサワ

「元彼女のみなさまへ うちの人がお世話になりました でもご安心を
こっから先は あたしが幸せにするから」

→ ”元彼女” という存在に対して、純粋な感謝を言える心の強さ

・『ドライフラワー』優里

「もう顔も見たくないからさ 変に連絡してこないでほしい 都合がいいのは変わってないんだね
でも無視できずにまた少し返事」

→まだ”好き”という気持ちが残っているにもかかわらず、別れた相手に強がる姿勢

4. 考察

SNSという観点に着目して分析すると、昭和では、SNSの普及が乏しく連絡をとりづらかったため、すれ違いが多かったが、SNSが普及しはじめた平成では、メールや電話などの活用が恋愛の鍵を握るようになった。また令和では、SNSの普及によって芸能人との距離が近くなり、「推し」に恋をするという概念が生まれたことが読み取れる。

男女間の力関係や優位性の構造に着目すると、昭和の恋愛では男性が優位であることが多かった。また、平成になると「2人」や「平等である」という関係性が強調されるようになり、令和では強気な女性が目立つようになったと推測できる。

5. 結論

SNSの普及に伴って恋愛における価値観や行動様式が大きく変化したことがわかった。また、時代が進むにつれ、男女間の力関係や優位性の構造にも変化が生じていることが明らかとなった。恋愛観における、時代に伴う男女間の関係性の変化については「大草食時代」でも述べられている結論を歌詞からも読み解くことができた。

今回の研究で、そもそもアンケートで集まった曲の母数が少なく、数少ない曲の中で分析を行ったため、研究の正確性に欠けるという課題が生じた。そのため、より多くの曲を分析し、その上で、他の視点から分析したり、細かく年代分けをしたりして研究の正確性を高めていきたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

磯田絵理香ほか(2009)「大草食時代」 早稲田社会科学総合研究 別冊『009年度 学生論文集』pp.27-37

大森美佐(2014)「若者はどのように恋愛関係を成立させるのか—ケータイ・コミュニケーションに着目して—」『家族関係学』一般社団法人 日本家政学会家族関係学部会 33巻 pp.27-39

高木秀(2019)「GReeeeNの歌詞における表現特性」,学校教員養成課程 国語教育専攻 小学校コース 平成30年度 卒業論文